

令和 7 年第 3 回松田町議会臨時会

行 政 報 告

令和 7 年 10 月 10 日

松田町長 本 山 博 幸

始めに、9月7日に執行された、松田町長選挙におきまして、町民の皆様からご信託を頂き、9月24日に、4期目の初登庁を迎え、改めて初心を大切にする決意を致しました。本臨時会は、4期目に入り最初の議会となりますので、今後4年間の町政運営に向けての所信を述べさせていただきますことを、ご承知願いたく存じます。

このたび、松田町長として、4期目となる町政運営を担わせて頂く事になりました。これまでの12年間は私と家族が松田町民となってから、就任までの12年間分の恩返しと思い、感謝の気持ちを示すため、全力で行動し、カタチにして参りました。町民並びに議員の皆さまには、常日頃から町政運営に対し、ご理解・ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

これからの4年間は、古き良き時代を敬いますが、その時代の幻想にすがっていてばかりでは、松田町は、成長・進化をしない結果、「松田町の歴史と文化」を引き継ぐ若い世代の人口が減り続けることにより、本当の意味で、消滅する町となってしまいます。

そうならないために、私が常に意識している「言葉・思想」

を皆様にも意識していただきたいので、お伝えします。

皆様、「米 100 俵の精神」という言葉とその話を聞いたことがありますか。私は、就任後、間もなくこの言葉を知り、正に当時の松田町に不足しており、今後のまちづくりにおいて、非常に重要で大切な考え方として、私が目指すまちづくりの根っこの部分となっています。

概略を申しますと、幕末の長岡藩（現在・新潟県長岡市）において、「興学私議」という教育論を著していた、小林虎三郎という方のまちづくりに対する思想です。

戊辰戦争に敗れ焼け野原となった長岡藩の窮状を知った支藩の三根山藩（現新潟市西蒲区峰岡）から米百俵が見舞いとして贈られ、食べるものにも事欠く、長岡藩士たちにとっては、のどから手が出るようなお米であったため「早く、米を分ける」といきり立つ藩士たちに対して、小林虎三郎は

「この米を、一日か二日で食いつぶしてあとに何が残るのだ。国がおこるのも、ほろびるのも、まちが栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。」「この百俵の米をもとにして、学校をたてたい。この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には一万俵になるか、百万俵になるか、はかりしれないも

のがある。米だわらなどでは、見積れない尊いものになる。その日ぐらしでは、長岡は立ちあがれないぞ。あたらしい日本はうまれないぞ。」と教育第一主義を唱え、三根山藩からの救援、米百俵をもとに、国漢学校を設立し、後年、海軍の山本五十六元帥をはじめ、新生日本を背負う多くの人物を輩出するまでに至った、という逸話です。

この精神・教えから得るものとして“人づくりは国づくり、まちづくり“であることが理解出来ます。これが私の根っこにある政治信条でもあります。

今後この考え方・精神に則り、人づくりに資する事業を推進することで、新しい時代のニーズに即した、まちづくりを行い、松田町が掲げる目標達成に向け、強い信念に基づく突破力と達成力を活かした、新たな本山町政を積極的に進めて参りますので、ご指導ご鞭撻を賜ります様、何卒宜しく願い申し上げます。

さて、松田町においては、私が初就任した当時から様々な課題が山積しており、3期12年の間、解決に向け短期・中期・長期に分け対策を講じるため、第5次及び第6次総合計画に基づき各事業について、目に見えるカタチで数々の事業

を完遂してまいりました。

松田町の最大の課題については、少子高齢化による人口減少の影響により、人口数による割り勘効果が少なくなること、町民の負担が増えることやサービスの低下が懸念されていることです。その理由について、判りやすく申しますと、本年 10 月 1 日現在の松田町の人口は、9 月 1 日より 8 人増え、10,224 人であることを前提として、松田町の人口のピークであった 30 年前の平成 7 年は、今より約 3,000 人（約 30%）多い 13,240 人になりますが、その当時の人口がいたころと同様な町民サービスの提供を継続することは、今の町民が約 30%の負担が増加していることと、解釈もできます。よって、現在においても非常に厳しい財政状況であるにもかかわらず 30%の負担を感じさせない様、行政運営を行っていますが、町民の皆様の中には、他の自治体と比較しても高い水準での町民サービスを受けている状況が「あたり前」と思われている方がいらっしゃる、時にはそれ以上にサービスの向上を求めていらっしゃいますので、これまで町が町民の直接的な経済負担を増やすことなく、サービスを向上するための財源確保を行ってきたことは、並々ならぬ努力の賜もの

であることをご理解いただきたく存じます。

松田町は、2014 年 5 月に「日本創生会議」が発表した際、「消滅可能性都市」に分類されたことにより、更に松田町のイメージがさがり、若い女性の人口が著しく減ることが予想されるため、分類された以降、松田町に住みたい、行ってみたいと思ってもらうためには、町の魅力を向上させることが肝要であることから、数多くの国・県の補助金を獲得し、松田創生に必要な対策を講じ、積極的に町民の皆様からの声をカタチにして参りました。これまでにやってきた事業の一部を申し上げますと、松田小学校を全国 4 例目、神奈川県初となる木造 3 階建校舎への建替えや、新松田駅周辺整備事業の更なる推進、県内自治体に先駆けて I C T を活用したオンライン学習の推進や英語指導助手（A L T）の増員、高齢者等への支援策として、移動販売事業や高齢者等福祉タクシー助成、パークゴルフ場の 18 ホール化、その他にも数々の事業に取り組んで参りました。

その結果、令和 6 年 4 月、有識者で構成する「人口戦略会議」では、令和 5 年 12 月に公表された「日本の地域別将来推計人口」を基に、2014 年の将来人口を踏襲し、2020 から 2050

年までの 30 年間に於いて、20～39 歳の若年女性人口動向について、これまでの様々な施策による総合的な効果により、2020 年の人口を基にした、今回の発表では、対象となる女性の人口減少が 50%未満と推計されたことにより、消滅可能性都市から「脱出」をする結果となりました。ただ、「脱出」するまでの道のりは、コロナ禍を経験し、苦労の連続、一般的な普通の自治体運営では、考えられない程の努力を重ね、この状況に至る事は「あたり前」のことでは全くありません。

近年においてもコロナ禍等の影響もあり、特に近年、若い世代の人口減少のスピードが増し、町の全人口の 65 歳以上の方々の割合を示す高齢化率も 36%を超えている状況を鑑みますと、引き続き危機感を持ち続ける必要性が高まっています。そのため、子どもから高齢者までが安全・安心に暮らせるまちを創り上げることも私の使命でもありますので、町内の人口割合が減少している未来を創る子どもや、子育て世代への経済的な支援事業にも重点を置き、チルドレンファーストの理念を念頭に、従来から行っている高校生までの小児医療費や第二子保育料の無償化等に加え、新たに町立小学

校・中学校の給食費の無償化や、全国的にも例が少ない学童保育保護者負担金の無償化など、神奈川県下トップの「8つのゼロ」に取り組み、子育て世代のみなさんが安心して、子育てに希望と喜びを感じられるよう、令和7年4月に行った「こども子育て応援宣言」の実現に向けて、「松田町こども・子育て応援条例」を制定し、『チルドレンファースト・ネクスト～子ども子育て大応援～』と題して、各種事業を行っており、その結果、高齢者を守り・支える若い世代の人口増加による安全・安心な生涯をおくれる松田町を目指しています。

私の4期目の町政運営については、「町の発展へ、これまでの確かな歩みを止めない、未来へ向けて継続」と題し、総合計画アクションプログラムの事業に位置づけている持続可能な開発目標の「SDGsの理念(だれ一人とり残さない)」に沿った基本的・総合的取り組みを推進していくため、町民の皆様と一緒に安全・安心したまちづくりに積極的かつ強力に取り組んで参ります。

私は、近未来を見据えたまちづくりの新たな考え方として、4年前の3期目の選挙戦から現在も公約に掲げて参りまし

た、「チルドレンファースト」を旗印として、引き続き子どもたちが住みたい・子ども目線のまちづくりを推進し、大学や就職などの理由により、一度松田町から出た子どもたちが子育て世代となったら、松田町に戻って来て「おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん」と「親子三世代が、近くに、一緒に笑顔で安心して暮らす町」を目指し、少子高齢化による人口減少の抑制を行いつつ、高齢化が進む松田町であっても町民が「住んでて良かった」と思ってくれるまちづくりを積極的に取り組んで参ります。

そこで、4期目の施策として、3期12年間の確かな歩みが、経験が、実績が、これから安定した松田町の未来に確実につなげていくために、「未来にツナグ8つの公約」と具体策の一部をお示しします。

1つ目に、「町民の命と生活を守る」ために、物価高騰対策をはじめ、近年の豪雨や土砂災害などの自然災害による対策の強化、再生可能エネルギーを活かした寄地区の孤立対策などに取り組めます。

2つ目に、「安心の人生100歳時代」に向けて、誰もが安心して暮らせるように、高齢者の移動手段の確保、移動販売

事業の継続、独居高齢者の孤立にさせない支援・見守りなどに取り組みます。

3つ目に、町の魅力アップや定住人口の増加による「賑わう松田」を目指すため、新松田駅周辺整備事業の強力な推進や遊休地の宅地化促進、安心して子どもたちが遊べる公園や広場、遊具の充実などに取り組みます。

4つ目に、安心して子育てができる経済支援などによる「子ども子育て大応援」として、小児医療費助成事業や学童保育運営事業、第二子の保育料や給食費保護者負担金など、無償化の継続。子ども子育て応援条例の制定や認定こども園の新規開設などに取り組んで参ります。

5つ目に、観光や商工農林事業促進に伴う「松田の魅力発信」として、町内各種団体との連携強化と事業支援、スポーツツーリズムによる新たなお客様（消費者）の増加などに取り組みます。

6つ目に、教育と生涯学習環境の整備として、英語教育やICT教育・オンライン学習の充実強化、町生涯学習センターの多目的利用の推進、教育関連施設の環境整備の推進などに取り組みます。

7つ目に、「輝く寄エリア」として、寄幼稚園・小学校の存続を目指し、賑わいと雇用の創出に向けて、地元民間団体や事業者との連携強化、寄みやまグラウンドや寄管理センター大規模改修工事などにより、新たなお客様の増加による地域の活性化に取り組めます。

8つ目に、「稼ぐまちづくり」として、町の財政力を強化するため、官民連携による町有地や町有施設の有効活用による町負担の減額、川や景観、水を活かした新たな事業や産業の創出、ふるさと納税の増収などに取り組めます。

また、8つの新たな事業提案につきましては、本山町政が進む中で、徐々に町民の皆様へ御提案して参りますので、御期待くださいます様、お願いします。

これらの具体的な施策を実行するためには、「町民との協働」「行・財政改革」「シティプロモーション」「官民連携事業推進」の継続が必要となり、SDGsの取り組みにおいて、「グリーンとデジタル化」へのシフトチェンジも必要不可欠となります。特に正しい情報を正しく理解、受け止めてもらえる発信力を強化する必要性を強く感じていますので、これらの要素を未来志向で最先端のAIやデジタル、SNS等を活用

し、様々な施策と発信、それらと融合しながら持続可能な自治体を目指して参ります。

併せて、松田町には、まだ一部施設整備などの課題が残っていますので、今後も随時対応しつつ、これからは、ソフト面の課題解決についても、重心を傾け、松田町の未来へ向けて、全ての町民の皆様が「松田町で暮らして良かった」と言って頂けるよう“オール松田”で取り組んで参ります。

最後に、未来を見据えた行政運営を押し進めていくためには、「行政は財政」という言葉があります様に、経営感覚を持ったしっかりとした財政運営が必要であります。

限られた資源の中にて財源を確保するのは、「簡単なこと」ではないので、人口増加施策や遊休地の宅地化、ふるさと納税など、収入増加策の強化はもとより、これまでの事業をゼロベースで総点検し、スクラップアンドビルドを徹底するとともに、「選択と集中」の考えのもと、メリハリのある財政運営を進めます。

更には、冒頭申し上げた「米百俵の精神」を念頭に、「協働」というキーワードのもと、町民、各種町内団体、企業、議会、行政が協力し合い、同じ方向に向かって一緒に働き汗

をかき、松田町の「歴史と文化」を未来へツナグ、人づくり
こそが、松田町の未来にとって大切なことでもあります。

世界情勢の変化による物価高騰など、時代の変革時を迎え、
非常に大変な状況でもありますが、未来を創る子どもたちの
ために、町民並びに議会の皆様の更なるご支援ご協力をお願い
申し上げます。

結びに、「大変」と言うことばは、「大きく」「変わる」と
も解釈できます。100年に1度の松田町の大改革を町民の皆
様と共に乗り越え、100年後を見据え「未来を拓く」ために
「大きく変わる」松田町へ進化続けるよう、これまでの実績、
行動力、経営感覚を活かした町政の舵取りを行い、これから
の4年間、町民の「命と財産」を守り「米百俵の精神」を基
に、これまで以上に発想を豊かにして、創意工夫をこらし、
自主財源の確保が難しい町だからこそ、官と民とが相互に協
力しあえるまちづくりを積極的かつ強力に進め、町民の夢や
希望を叶えて参ります。

引き続き、議員各位のご指導、ご鞭撻を衷心よりお願い申
し上げ、所信表明とさせていただきます。